

災害時における注意事項

1 登校前に警報等が発令された場合

(1)「特別警報」発表の場合

① 登校しない。

② 解除されたときは、通学路などの安全の確認ができた時点で、メール配信などで登校時間を連絡する。

(2)「暴風・暴風雪警報」発表の場合や、南陽校区内に大雨による警戒レベル4(避難指示)発令の場合

① 東三河南部(豊橋・田原)に上記の警報が発令されているときは、登校せずに家庭学習とする。

② 午前6時00分までに解除されたときは、平常どおり授業を行う。

③ 午前6時00分を過ぎても解除されないときは、当日は授業を行わない。

(3)「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」「雷注意報」「竜巻注意情報」や大雨による警戒レベル3(高齢者等避難)が発令されている場合

① 原則として平常どおり授業を行う。

② 状況により危険と思われるときは、登校を一時見合わせてよい。また、登校前(午前7時)に授業の有無、授業開始時刻を決定し、メール配信などによりそれぞれの家庭に連絡する。

(4)「南海トラフ地震臨時情報」発表の場合

- 通常どおり登校する。

キーワード	学校の対応
調査中	各学校は続報に注意し、平常どおり教育活動を続ける。 また、速やかに日ごろからの地震への備え、発生時の対応について再確認する。
巨大地震警戒	※校区の状況を確認しながら、生徒の命を守ることを最優先に、市教委と協議の上、校長が判断する。
巨大地震注意	※校外学習中(修学旅行・野外教育活動を含む)の場合は、安全な場所に生徒を集合させた後、帰校する。
調査終了	平常どおりの教育活動を継続する。

(5)登校に支障をきたす状況(河川の氾濫、冠水など)が発生した場合

- 保護者の判断で登校を一時見合わせてよい。そのときは、学校に連絡をする。「遅刻扱い」にはならない。

2 登校後に警報等が発令された場合

(1)南陽校区内に大雨によるレベル4(避難指示)以上や「特別警報」発表の場合

- 直ちに授業を中止し、学校に待機する。通学路の安全を確認し、引き渡し可能な状況であれば、メール配信などで連絡する。

(2)「暴風・暴風雪警報」発表の場合

- 台風の中心位置、進行速度および方向、気象状況などで判断し、安全に帰宅できると判断したときは、授業を中止して速やかに下校させる。
- 通学路が危険と認められるときや通学距離などにより帰宅が困難と認められるときは、生徒を学校に残す場合がある。

(3)「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」「雷注意報」「竜巻注意情報」発表や大雨による警戒レベル3(高齢者等避難)発令の場合

- 状況を判断し、授業の継続または中止を決定する。
- 通学路が危険と認められるときや通学距離等により帰宅が困難と認められるときは、学校に残す場合がある。

(4)「南海トラフ地震臨時情報」発表の場合

- 通常どおり教育活動を続ける。上記の「1 登校前に警報等が発令された場合」(4)に準ずる。

(5)レベル4 避難指示以上発令の場合

- 校区内の安全を確認したうえで、集団下校をする。引き取り生徒は、保護者が来るまで学校で待機する。

(6)津波が予想される場合

① 運動場東の崖上の豊橋保健所(ほいつぶ)方面に一次避難をする。

② 津波到達や液状化などで校外に避難できない場合は、校舎3階、4階に避難する。